

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502389		
法人名	有限会社 敬友		
事業所名	グループホームいずみの里		
所在地	札幌市白石区北郷2条11丁目4番32号		
自己評価作成日	令和6年7月8日	評価結果市町村受理日	令和6年8月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvogyoCd=0170502389-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvogyoCd=0170502389-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年7月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「敬うところ、尊厳ある暮らし」の理念を念頭にいれ入居者の皆様が毎日ゆったりと過ごして頂けるよう職員は優しい言葉と笑顔で関わり笑いのある暮らしを心掛けています。普段の暮らしの中で洗濯物を干したりたんだり食事の下ごしらえや食器拭き等、家事も一緒に行いながら「のんびり・ゆっくり」ふつうの暮らしを展開しています。ガーデニングや畑のピーマン・じゃがいも等の家庭菜園、夏のバーベキューなど季節を感じて頂けるようアクティビティも楽しんでおります。近隣に系列のグループホームも運営しており、交流で協力体制を構築し質の向上にも努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌新道と北13条北郷通が交差する近くの住宅地にあり、近隣に法人の事務所と系列のグループホームがあるため災害時の協力体制が整っている。玄関先に花を飾り柔らかな雰囲気での訪問しやすい。共用空間の壁に職員と利用者が共同で作成した飾りやイベントの写真を掲示してあり、リビングルームはエアコンや床暖房で快適に過ごすことができる。利用者の持てる力を最大限に発揮できるよう作品作りや日替わりの体操で体力と意欲の低下を防いでいる。運営者が町内の役員をしており地域の情報が入りやすく、近隣住民から野菜等をもらったり、相談や質問に回答するなど地域との交流も活発にしている。職員同士のコミュニケーションが良好で開設当初から在籍の職員や管理者を含め認知症ケアの意識が高い勤務年数の長いベテランの職員が多く、「敬う心、尊厳ある暮らし」の理念を大切に利用者が安心して暮らせる生活をサポートしていることから多くの家族からの信頼が寄せられている。看護師の健康管理と内科医による毎月の往診や他科受診の他、薬剤師と連携して医薬品の保管管理も行い健康面で安心した暮らしが出来る。職員が利用者ごとに思い出の写真付きのカレンダーを作成し誕生日にプレゼントしたものが居室の壁に飾ってある。いつまでも元気に自分らしく楽しく暮らせる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fこもれび)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所やホーム内に理念を掲示し敬う心を大切に、その人らしい暮らしができるよう取り組んでいる。またユニット会議や研修で理念の確認を行い、日頃のケアの振り返りを行なっている。	事業所内の要所に理念を掲示してあり、職員は日々意識しながら理念が実践に結びついているか確認をしている。ユニット会議や研修の際に理念について考える機会もあり全職員が理念を共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染の規制緩和を行いながら、以前行っていた近隣との交流に少しずつ戻れるよう努力している。散歩時に挨拶を交わしたり、山菜のおすそ分けを受け取ったり、日常的につながるように少しずつ交流している。	近隣とは散歩の際の挨拶や差入れなどで日常的に関わりを持っている。近隣住民からの相談にアドバイスをしている。町内のリサイクル活動に協力している。町内会の納涼祭で出店で買ったものを事業所に持ち帰り祭り気分を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において地域の皆様や見学時いつでも相談が受けられるよう心がけている。近隣のタクシー運転手さんを通じて相談・アドバイスを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開催しホーム内の取り組みや行事・事故報告を行ったり、地域の方と繋がりがもてるよう意見交換を行っている。	会議は利用者家族、地域包括支援センター職員、町内会関係者数名、民生委員、知見者、事業所から管理者と事務局職員の参加で行い、事業所からの報告として入居状況や活動報告、行事実績や予定を説明している。報告書は家族へ送付している。	事故やヒヤリハット、職員の入退職や移動を追記し参加できなかった家族等にもわかりやすい報告内容の検討や意見等を得ることに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談やわからないことがあれば、必要に応じて担当課へ適宜、連絡を取り打ち合わせを行っている。法人本部と管理者が協同し介護保険制度に関わる書類を提出したり、協力関係を築くよう取り組んでいる。	行政との連絡は主に法人本部が対応しているが、管理者も報告や提出書類の確認で担当部署の職員と連絡を取り合い意見や助言をもらい運営に反映させている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月毎に身体拘束適正化委員会会議を開催し、内部研修や意見交換を行い、不適切なケアに結びつかないよう努めている。ユニット入口、玄関は施錠せず自由に過ごせるよう外に出たい要望があれば散歩やドライブに出かけたり気分転換を図っている。	身体拘束廃止と虐待防止について各指針に基づき3か月ごとの委員会と、それらに係る身体拘束・虐待予防研修を開催している。チェック表も活用し身体拘束や虐待に結び付くような不適切なケアがない事を意識しながら業務を行うよう話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を開催、チェック表などを用いてケアの振り返りを行いながら防止に努めている。外部研修にも参加できるよう調整し、終了後は全職員が意識するよう情報発信を行っている。		

グループホーム いずみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fこもれび)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に数件、成年後見制度を活用していたが現在は利用ケースがないため意識は薄れている。勉強の機会を持ち、備える必要性を感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に十分な時間をかけ説明を行っている。疑問点や希望を伺いながら心配事や不安を解消し安心して利用していただけるよう説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や介護計画の意向の話し合い時、また運営推進会議などで家族の意見や希望を日々のケアに反映させている。	いずみ通信を家族へ発送し事業所での暮らしの様子を知らせている他、家族の訪問時や電話連絡で個別に生活状況や健康情報を報告している。家族から意見をもらったときはノートに記録し職員で情報を共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議の他、気が付いたとき都度、話ができる関係性を築き運営に反映させている。また自由に発言できる雰囲気大事にしている。	勤務年数の長い職員が多く、日常的に意見を聞いて業務に反映させている。職員意見を尊重し処遇改善を行ったり希望休や有給取得も調整をして働きやすい環境を整えている。資格取得がしやすいように管理者がアドバイスをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善交付金の活用や資格取得者に手当などでモチベーションを図り、知識や技術・経験に磨きをかけて働けるよう務めている。状況に応じ、個々の職員と面談する機会を設け希望する働き方を可能な限り受け入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現状に必要な内容の外部研修に参加する機会をもうけ、スキルアップできる対応をしている。内部研修も会議のあと行い、日々のケアの振り返りを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区内のグループホーム連絡会において、管理者同志の交流を行い、電話や訪問で情報交換を行っている。また、代表自ら同業事業所を訪問し顔の見える相互関係を築く取り組みを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fこもれび)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、本人が安心できるよう、面談の段階で要望など聞き本人の意思を尊重できるようコミュニケーションを大事にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、センター方式のアセスメントの記入を依頼しながら要望等もききとり、これからの暮らしを協働で支えて行けるよう良好な信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話を傾聴し不安を取り除きホームでの生活に慣れていくことを目標にしてその人らしく生きる視点で対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の負担にならないような言葉がけで本人の意思を尊重しながら家事のお手伝い等をお願いし、関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしや様子を来訪時に伝え、本人の出来ること、好きなこと等話し合いながら、共に暮らしを支えられる様、努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の制限や外出の制限はまだあるが、お墓参りや遠方からの面会や家族のお見舞いに出かける等、条件によってできる範囲の支援に努めている。	感染症が収束した後も、制限のない面会や外出は未だ出来ていない状況であるが、馴染みの関係が途絶えないよう検討し外出は事業所で安全に配慮をしながら行っている。いつでも事業所の電話で家族等と話せるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の話題や小さな場面でも対応できるように一人一人のペースやリズムに合わせお互いの関係を深めるよう努力している。また入居者が孤立しないよう職員が調整役になって関わっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fこもれび)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してもその後の近況を伺ったり、連絡を頂いたり関係を断ち切らないよう努めている。ご家庭で不要になった福祉用具やお参りの声掛けを頂くこともある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中や表情・問いかげの反応などから利用者がどのように過ごしてきたか、また趣味や希望・不安を聞き取り一人一人に合った支援を行っている。	会話から利用者の希望や思いの把握に努め、表現しづらい利用者には仕草や表情を観察し本人の希望の把握をしている。散歩の希望は外気温を検討し近隣を歩いたりホームの畑や玄関の花に水やりをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、センター方式を使用したり把握に努めている。入居後も会話や行動からアセスメントし把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録に一日どのように過ごしているか、普段と違った行動などを記録し把握している。また内容を職員間で共有するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーと介護リーダーが中心になって、定期的に職員、家族、本人に情報収集と意見交換を行い介護計画に反映している。	夜勤者を含め職員全員で検討した評価表を基にカンファレンスし、本人の状態や希望、家族の要望を確認し現状に即したケアプランを3か月ごとに作成しているが、状態変化がある場合は短期の計画に変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の中の関りで気付いたことや様子を記録し問題などを共有しながら支援に努めている。状態の変化に応じて話し合い見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族の状況に応じて、必要な物の購入や補充・支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者と近所の散歩などで挨拶を交わしたり季節の野菜のおすそ分けを頂いたり、地域の一人として生活が豊かになるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1度の訪問診療を行っている。本人、家族の希望も伝えながら関係性を築いている。かかりつけ医以外の受診については家族と協同で情報共有し適切な医療を受けられるよう支援している。	定期往診や看護師が訪問しており他科は職員が同行し受診後は病院受診ノートに記録し必要となる報告を家族へ伝えている。看護師と24時間連絡が取れ体調不良時に指示を仰いでいる。薬剤師と連携し服薬管理を行っている。	

グループホーム いずみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fこもれび)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師が週1回訪問看護で一人ひとりの全身確認の変化をみて記録している。健康管理の相談や助言も受けながら連携している。急な体調不良時も電話で指示を仰ぐ等、訪問看護日以外でも適宜対応し体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は職員がホームでの生活の様子を伝えている。早期に退院できるよう医療連携室とコミュニケーションを取りながら調整している。また日頃から関係作りも行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化終末期に向けた方針の説明を行い確認書も取り交わしている。状態の変化に応じ家族・医師・看護師と連携しチームで支援している。	入居時に終末期の対応について「重度化対応・終末期ケア・看取り指針」を説明し同意を得ている。経口摂取で栄養が摂取出来ない場合は本人と家族の望む療養生活ができる移行先を検討し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを使用し事故発生時に備えている。急変時、看護師への緊急連絡体制も整えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。夜間を想定した訓練や消化器の使い方を体験するなどし近隣施設と協力体制を築き身につけている。階段の避難方法について、職員間で話し合い実践している。	自然災害による業務継続計画(BCP)は完成しているが計画を見直し項目を充足している状況である。今年度は火災訓練を行い、災害時に必要となる備蓄品を確保している。	自然災害を想定した訓練の実施に期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の思いや自己決定しやすい言葉がけで個人のペースを尊重して支援している。申し送りを行う時は、個人を特定できないようイニシャルを使うなどプライバシーに配慮している。	グループホーム協議会の研修に参加して実際にあった事例を発表し利用者の尊厳や誇りを損ねない対応を学んでいる。希望を尊重し利用者のペースに合わせて対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせて質問の仕方を変える等、選択しやすいコミュニケーションを取りながら自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで過ごせるよう強引な誘導は行わず本人の思いや気持ちを重視し希望に沿いながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望や好みに合わせて洋服を選んで。厚着の方もいるが体調不良にならない程度にできるだけ季節に合わせたものを着れるように支援している。		

グループホーム いずみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fこもれび)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じて献立を工夫、食材の偏りがないよう調理し匂いや味を楽しんでいる。調理が可能な利用者と一緒に行うことで楽しい食事を実感して頂いている。	毎月15日間は調理専門職員が食事を作り、それ以外は職員が分担してバランスの取れた料理を提供している。生鮭の出前の他にも行事や季節ごとの楽しみがある。毎朝乳製品を提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量を個人の記録で管理し職員間で共有している。医療との連携を行いその方に合った食事形態で提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後の口腔ケアのサポートを行っている。必要に応じて歯科医の指導・治療を受けている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の生活パターンやリズムを把握しトイレでの排泄の声掛けや誘導を行っている。利用者の自立した排泄が長く続くよう支援している。誘導の際の声掛けにも自尊心を傷つけないよう十分配慮している。	排泄間隔を確認し居室で排泄用品の交換をする場合は自尊心に配慮をしている。排泄後に自主申告する利用者もいる。トイレを出た際に便臭等で排便があったことを確認し記録を付けている。夜間も排泄のため起きてくる利用者をサポートしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳やヨーグルトを提供し繊維質の多い食材をとり入れたり水分の促しで便秘予防に取り組んでいる。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望や体調を考慮し週2~3回の個浴の実施を行っている。ゆったり湯につかれるよう入浴剤の工夫を行ったり会話を大事にしてくつろいで頂いている。	利用者は週2回、午後の時間帯に3名から4名が入浴をしている。のぼせや湯あたりを防ぐため入浴前にスポーツドリンクを提供し、入浴後は好みのジュースやお茶で水分補給をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を充実させて就寝時に安心して眠れるよう支援している。個々に合わせて日中も休憩時間を設けるなど工夫している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問薬剤管理で薬剤師と連携して保管管理を行っている。個々の服薬内容を把握し服薬手順に沿って事故が無いよう努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や得意を把握し、それぞれの役割分担を行っている。ドライブや外出行事で気分転換を図っている。季節のイベントでは希望によりノンアルコールビールを準備し楽しんで頂いている。			

グループホーム いずみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1Fこもれび)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はドライブや散歩などを行っている。畑作業やガーデニングで戸外の空気を吸って気分転換をしている。家族の協力のもと、法事やお墓参り、お見舞いができるよう支援している。	直近の新型コロナウイルス感染者数の増加に伴い制限のない自由な外出は難しいが、事業所で花見ドライブや数名ずつでフードコートに出かけスイーツを食べている。近隣の散歩やベンチにすわり畑の野菜を収穫したり花の水やりをしに戸外へ出ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	安全面を配慮し金銭管理は家族・ホームで行っている。少額を持参することで安心される方は所持することが可能になっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の所持は可能になっている。ホームの電話も使用可能になっており通話できるようにしている。またハガキや年賀状を出す支援もおこなっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾りつけや楽しかった行事の写真を張り出している。貼り付けは、職員と一緒に準備や制作を楽しみながら行っている。利用者の希望や状況に合わせてテレビをつけたり、音量にも気を配り落ち着いて過ごせるような環境にしている。	明るく清潔感のある共有空間は床暖房とエアコンが設置されており快適に過ごすことができる。利用者と職員の共同作業で作った素敵なちぎり絵が多数飾られて温かみを感じられる。居室に籠らず居心地のよいリビングスペースで談話したり体操をして過ごす利用者が多い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり自席で落ち着けるよう工夫し、ストレスを感じにくい配置になるよう調整を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物や思い出の品、好みのものを持参している。本人が過ごしやすいよう家族の写真を張るなどして居心地のよい環境づくりをしている。	居室に予めカーテン、照明器具、パネルヒーターが設置してある。思い出のある人形や家族の写真、仏壇など馴染みの物に囲まれている。本人の写真モチーフにした職員手作りの月めくりカレンダーが飾られ、利用者、家族に喜ばれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には手作りの表札をかけた、トイレがわかるよう表示したり、タンスや収納ケースには中身がわかるようラベルを張ったりしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502389		
法人名	有限会社 敬友		
事業所名	グループホームいずみの里		
所在地	札幌市白石区北郷2条11丁目4番32号		
自己評価作成日	令和6年7月8日	評価結果市町村受理日	令和6年8月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvgysoCd=0170502389-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvgysoCd=0170502389-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「敬うところ、尊厳ある暮らし」の理念を念頭にいれ入居者の皆様が毎日ゆったりと過ごして頂けるよう職員は優しい言葉と笑顔で関り笑いのある暮らしを心掛けています。普段の暮らしの中で洗濯物を干したりたんだり食事の下ごしらえや食器拭き等、家事も一緒に行いながら「のんびり・ゆっくり」ふつうの暮らしを展開しています。ガーデニングや畑のピーマン・じゃがいも等の家庭菜園、夏のバーベキューなど季節を感じて頂けるようアクティビティも楽しんでおります。近隣に系列のグループホームも運営しており、交流で協力体制を構築し質の向上にも努めております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年7月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかぜ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所やホーム内に理念を掲示し敬う心を大切に、その人らしい暮らしができるよう取り組んでいる。またユニット会議や研修で理念の確認を行い、日頃のケアの振り返りを行なっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染対策の規制緩和を行いながら、以前行っていた近隣との交流に少しずつ戻れるよう努力している。散歩時に挨拶を交わしたり、山菜のおすそ分けを受け取ったり、日常的につながるように少しずつ交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において地域の皆様や見学時いつでも相談が受けられるよう心がけている。近隣のタクシー運転手さんを通じて相談・アドバイスを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開催しホーム内の取り組みや行事・事故報告を行ったり、地域の方と繋がりがもてるよう意見交換を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談やわからないことがあれば、必要に応じて担当課へ適宜、連絡を取り打ち合わせを行っている。法人本部と管理者が協同し介護保険制度に関わる書類を提出したり、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月毎に身体拘束適正化委員会会議を開催し、内部研修や意見交換を行い、不適切なケアに結びつかないよう努めている。ユニット入口、玄関は施錠せず自由に過ごせるよう外に出たい要望があれば散歩やドライブに出かけたり気分転換を図っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を開催、チェック表などを用いてケアの振り返りを行いながら防止に努めている。外部研修にも参加できるよう調整し、終了後は全職員が意識できるよう情報発信を行っている。		

グループホーム いずみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に数件、成年後見制度を活用していたが現在は利用ケースがないため意識は薄れている。勉強の機会を持ち、備える必要性を感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に十分な時間をかけ説明を行っている。疑問点や希望を伺いながら心配事や不安を解消し安心して利用していただけるよう説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や介護計画の意向の話合い時、また運営推進会議などで家族の意見や希望を日々のケアに反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議の他、気が付いたとき都度、話ができる関係性を築き運営に反映させている。また自由に発言できる雰囲気大事にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善交付金の活用や資格取得者に手当などでモチベーションを図り、知識や技術・経験に磨きをかけて働けるよう努めている。状況に応じ、個々の職員と面談する機会を設け希望する働き方を可能な限り受け入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現状に必要な内容の外部研修に参加する機会をもうけ、スキルアップできる対応をしている。内部研修も会議のあとに行い、日々のケアの振り返りを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区内のグループホーム連絡会において管理者同志の交流を行い、電話や訪問で情報交換を行っている。また、代表自ら同業事業所を訪問し顔の見える相互関係を築く取り組みを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談の段階から利用者にホームを見て頂き、本人の希望する暮らしを聞き取り安心して過ごせるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決まった段階でご家族にセンター方式の記入を依頼、要望や困りごとにも耳を傾け協働で支えて行けるよう信頼関係作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報を全職員が共有し、第一に不安を取り除きホームの生活に慣れていくことに力を入れている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において本人の出来る部分を活かして、食器洗い・洗濯ものたたみ等の家事の役割り分担を行いながらお互いの信頼関係を構築している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者・家族の想いに寄り添いながら、家族から本人へアプローチしていただく等、信頼関係を築きながら共同で支える関係性を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族から預かったアルバムを職員と一緒にいろいろな話をしながら思い出を話したり、お墓参りや遠方から来訪された方の面会などコロナ禍前に少しずつ戻しながら支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事・おやつ時の食席や過ごされる場所に配慮し環境を整えている。職員が間に入り入居者同士の関係性を深めたり職員が寄り添ったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても近況の報告の電話を頂いたりしている。また家族から相談があれば応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や行動の中で入居者の想いを聞いたり記録や申し送りからの情報を活用し職員で共有、リーダー・ケアマネージャーが集約している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族にセンター方式の記入の依頼でこれまでの暮らしの把握に努めたり、本人から聞いたりし情報を活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の暮らしから状態の変化をみながら一人ひとりに合わせた関りに努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的ケアマネージャー中心にカンファレンスを開催し意見交換しながら家族・本人の意向を取り入れられている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや変化を生活記録に記載し連絡ノート、申し送り等で情報共有を図り実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族の状況に応じた受診援助や衣類の購入、補充の支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	山菜のおすそ分けを受けたり近所の散歩時、挨拶を交わすなどで地域の一員として生活を支えている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による月1回の訪問診療や家族が希望する病院へも対応している。家族・本人・看護師と受診することもあり、協働で適切な医療を受けられるように支援している。		

グループホーム いずみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護を実施している。入居者の健康状態、情報を共有し助言を受け連携している。急な体調不良時には夜間でも電話等で指示を仰ぐなど対応できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日頃から医療関係者と情報交換を行うとともに入院時には情報を提供し適切な治療、退院につながるよう関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居相談時に家族等にホームでの対応範囲を説明し理解していただいた上で、契約時に確認書を取り交わし同意を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成し事故発生時に対応できるよう備えている。看護師の連絡体制も整えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署立ち合いのもと夜間想定避難訓練を実施している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手の立場に立ち誇りやプライバシーに配慮した声掛けを心掛けている。呼称については、入居時に家族・本人に希望を伺っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定しやすい声掛けに配慮し、難しい場合には家族や日頃の関りから思いをくみ取れるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないよう、個々の生活リズムやペースに合わせ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や本人の趣味に配慮した更衣・身だしなみのお手伝いを行っている。定期的に訪問美容を利用している。		

グループホーム いずみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食の安全性、栄養、嗜好、食材選別等を購入段階より考慮している。食に関する事案は、可能な限り利用者と一緒にやっている。特に準備や片付けは自ら申し出、楽しみながらやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取状況は個別に毎食記録している。摂取方法、食材形態も個々の状況を考慮し対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後必ず実施し清潔保持を行っている。訪問歯科クリニックと連携し、問題があれば適宜対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄パターンを把握している。状況に応じて衛生用品の使用や排泄の声掛けで誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳やおやつ時のヨーグルト、食物繊維の食材の提供をおこなったり、水分の促しで便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や希望に合わせて週2~3回入って頂けるよう支援している。皮膚疾患の確認やコミュニケーションを取りながらリラックスした入浴支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンや希望に合わせた寝具の使用、状況にあわせて休息が取れるよう支援している。日中帯は家事活動やレク・体操を実施しスムーズに夜間睡眠に移行するよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師管理から引き継ぎ、セッティングは手順書に沿って複数の職員でチェックを行い、事故が無いよう内服し内容確認にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別の趣味、嗜好に合わせた対応を心掛けている。家事・歌・手芸・運動・散歩・外出等、穏やかな日常生活を楽しみながら営めるよう支援している。		

グループホーム いずみの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2Fそよかせ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとのドライブに出掛けたり、散歩・外気浴を行い気分転換している。花の水やり、畑作業の活動は日課になっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は家族・ホーム対応になっている。財布を持つことで安心される方には取り扱いを充分理解したうえで少額所持することは可能になっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話で会話する取り次ぎを行っている。携帯電話所持も可能になっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感のある空間を心掛け、観葉植物や季節を感じる貼り絵や行事の写真を貼ったりしている。温かみのあるぬいぐるみや小物も飾り工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル・椅子・ソファの配置を工夫し楽しく安心して談笑やテレビ鑑賞できるよう居場所作りを工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族と相談しながら馴染みの家具や椅子、小物・人形を置き安心して暮らせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置・居室内では家具の配置を工夫し、安全な移動動線や事故防止に配慮した環境づくりを行っている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームいずみの里

作成日：令和 6年 8月 2日

市町村受理日：令和 6年 8月 7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	自然災害を想定した防災訓練が出来ていない。	全職員が災害時の対応を身につけ機敏に動けるようにする。 外部との協力体制の強化を図る。	・職場会議で災害対策についての情報共有、意見交換を行う。 ・地震、水害等の防災避難訓練の実施を行う。 ・緊急時に協力して頂けるよう地域の方々との関係作りに努める。	12か月
2	4	運営推進会議において、事故やヒヤリハット、職員の入退職等のわかりやすい報告内容の追記の検討が必要である。	家族を含む構成員がモニターしやすい報告内容でサービス向上に活かしていく。	・運営推進会議において、事故やヒヤリハット、職員の入退職等に関する内容をわかりやすく報告し意見等を得ていく。	12か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。